

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬季号

日本アシュラム

Winter 1979

United Christian Ashrams of Japan

26

第三回国際アシュラム

聖霊のみ声を聴く

世界各地から二五〇名参加

★最初は三人から

故スタンレー・ジョーンズがインドのサトタルでわずか三名から始めたアシュラムが近く五十年になるうとしている時、世界各地の教会で守られるようになり、ジョーンズ師の提唱で第一回の世界アシュラムがエルサレムで守られたのは師が最後の病中、一九七二年であった。第二回はインドで七四年に守られ、今回ようやく第三回をわが国に迎えたのである。

アシュラムが初めてわが国で開かれたのは一九五五年天城山荘であったから、近く二五年になるうとしており、次第にその精神が各教会、同信の兄弟の間に理解されるようになってきたことは感謝である。これは一切を主イエスに明け渡し、聖書と祈りに徹し、静聴と服従の生活を送ることであるが、そのために大会のようなものを開催することに疑問を感じる向きもあった。しかしアシュラムは個人主義信仰ではない。使徒時代の教会がペンテコステで経験したコイノニヤ(靈交)を現代において体験することである、



The 3rd International Christian Ashram
第三回国際クリスチャンアシュラム 1978.10.4~6 会場はYMCA赤山荘

そこで日本でクリスチャンのアシュラム連盟によって互いに交わりを持つ私たちは、超国家、超人種、超教派の大聖会を開くことに意義を認めて、多くの協力者を得、二年前から祈りつつ準備に当

てきたわけである。

ジョーンズ師の娘婿ジム・マッシュューズ監督が都合で来られないこと、ドル安円高などで海外参加者が困難を覚えたことなど心配の種は尽きなかったが、神は私たちの思いにまさる恵みを注いで下さった。米国からバーク委員長、ワグナー総務を初め、多数の有力な兄弟が、カナダ、プエルトリコ、コスタリカからも、さらにアシュラム発祥地サトタルの指導者タイタス師、全欧州アシュラムの指導者ニールセン博士、韓国からも三名が参加して、日本各地からの出席者を合わせると予想の二五〇名を突破した。

★悪魔に遠慮せず

「今日における神の言」を主題にして、去る十月四日午後から東山荘に開会、礼拝説教で小生は今回の国際アシュラムにおいて祈求したい「愛肉の体験」——内往のキリストについて述べたが、その祈りは四名の海外助言者を通して主御自身から答えられた。

開心の時、タイタス師はインドの伝統的アシュラムは主イエスと弟子たちの生活から来ていることを語り、主の御前に自分の罪咎一切を告白するように迫られ、一同を黙禱に導かれた。同師は二日午前にも、主イエスが無一物の托鉢生活をされたすばらしさに学ぶべきを説かれ、夜の「福音の時」には「神の国の晩餐会に人々を強いて連れて来い」という「愛の強制」を説かれ、一同心の燃ゆるを感じた。

りであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円 50円

山根可式著
「アシュラムの恵」(百円)

祈りの細胞は二十分団に分かれて守られ、各自のニードを告白し、互いに祈りの助け合いが真剣に行われ、続いて翌朝まで連鎖祈禱が二ヶ所で行われた。

スウェーデンから来援のニールセン師は第二日の午前に、主イエスのすばらしさを説き、一同に御姿を明示され、三日目の朝には「サタンに遠慮する必要はない」と大胆に主イエスに従い、罪をざんげして癒やしを受けることを勧められた。

米国からの助言ワグナー師とバーグ師とは静聴の時を導かれ、ことにバーグ師の司式による早朝の聖餐式は今回アシュラムのハイライトとも言うべき靈交の最高潮を体験することができた。主イエスの御体と御血とが生きて一同の中に注がれるのを覚えた。

こうして最後の充滿の時には、一同が聖靈の充滿を受け、中路嶋雄師の奨励に応じて、感謝と決断を証しする人々が後を断たず、時間の不足を感じるほどであった。

★壇上に主ご自身

以上で今回初めてわが国で開かれた国際アシュラムの概況を記したが、ぜひともアシュラムの特色として述べたいことがある。それは今まで多くの集会で世界的伝道者、神学者の講演を聞き教えられる所はあったが、アシュラムの助言者たちの話を聞いていると、話し手の知識や経験や人格が段々に消えて行き、壇上に主イエス御自身が現われて、お語り下さるのを感じたことである。従って外

人も日本人も言葉の壁を感じることもなく、通訳の上手下手を超えて、一同が聖霊による御声を聞くことができたと感じていることである。

さらに最初の午前のレセプションで、日本連盟からガリラヤ湖畔にジョーンズ記念館を建てる費用の一部として約束していた金一万ドルの贈呈式を行ったこと。最後の朝、国際委員会を開き、委員長マシューズ、委員にバーグ、ワグナー、海老沢、中路、大石、ニールセン、タイタスの八名を挙げ、各国の連帯を強化し、八〇年にはサトタル・アシュラム五〇年記念大会とガリラヤ湖畔献堂式を、八二年には第四回国際大会を米国で開くことなども協議した。

今日わが国のキリスト教界において多くの魂が飢え渴いて天来の靈雨を待望している時に、このような恵みが降り、注がれたのだから、参加者一同の喜びは大きかった。以上の諸集会のために必要な費用も、全国各地から献げられて、募金目標を超え、満たされて余りあり感謝に耐えない。このような溢れる恵みに浴することのできた参加者が、今や全国各地に、それぞれの教会へ家庭へと帰られ、不幸にして参加し得なかつた愛する家族友人たちに、この聖霊の火を分かち合い、点火して頂くなら、全国に信仰のりバイバルが起こるのも間近いことである。うと信じ、かつ祈る次第である。

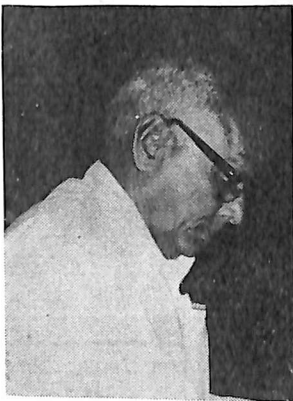
(海老沢宣道)

黙想

心を主に開け

デ・ピ・タイタス師

この幸いな国際アシュラムに皆さんと共に集まることができて感謝に耐えない。皆さんは喜んでいますか。それならもつと喜びを顔に現わさない。私たちは神によって新生し主イエスに属する兄弟であるから、お互いにも属し合っているのだとスタンレーはよく言われました。二十世紀初頭に一人の若い宣教師が米国からインドのラクナウに來られ、福音の木を各地に植えられた。インド人の心に愛、単純、無欲などの木を植えられたのです。しかしまだ何か欠けていた。そこでアシュラムを開始され教会の働きを助けられたのです。彼の洞察力に敬意を表したい。当時の教会は福音のためにさほど大きな働きをしていなかった。古い英語のさんびかを唱い礼拝を楽しんでいたようです。彼はアシュラムこそが福音



の使命に貢献するものと見られました。

日本でも主の福音を宣べ伝え、実を結ぶために日本の教会のできることがあります。もし教会が外国のまねばかりしているなら、独特の貢献はできない。聖書(黙示録)には主イエスが再臨される時、世界の諸国が新しいエルサレムに夫々の宝(貢獻)を持って来ると示されています。各国の教会がそのようなことが望ましいのです。

インド人は最近の世界に一つの挑戦をしています。多くのヒンズー教徒が欧米各地で宣教している。彼らは生活を極度に単純化し、一切の欲情を制し、暴力を排し、内面性に敬虔を持ち、心の平安と喜びを味わうことに励んでいる。これが世界の人々に挑戦となつています。所がこのような生活は既に新約聖書が語っていました。問題は多くのクリスチャンがこれを見失ってきたことでもあります。

神は異邦人を用いて、主の民を正しくし、眠っている信徒の心を目覚めそうとしておられます。ジョーンズはこの事に気づかれ、一九三〇年に僅か三人で始められました。一九八〇年にはサトタル・アシュラムの創始五十年の記念日を迎えます。大きな国際アシュラムを準備したい。ぜひ各国から参加して頂きたいと思ふ。彼はこのインドにあった考えを取出して、欧米各地に移植する努力をされた。今日国際アシュラムに加盟している百以上もあることは驚異であり、ここにその代表が集まっていることは喜びに耐えない。なぜそんなに魅力があるのか。

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

も一度、福音書に入って見たい。実はインドには紀元前五〇〇年頃からアシュラムがありました。一人のグル（教師）が中心に、弟子を選び、人里離れた静かな川とか湖の辺りに自分たちで小屋を建て、単純な生活をして祈りと瞑想にふけることを勧めました。だから専用の建物など持たせませんでした。このグルは弟子に絶対服従を要求し思い通りに、彼らを訓練することができました。

冬期にはあの村から薪を、この村から食糧を貰って来いと命じ、弟子たちはそれを持ち寄って隔てない交わりの生活をした。グルと弟子たちとの会話は常に内的、霊的、超越的な問題であった。弟子たちに誤ちがある時はきびしく叱られた。

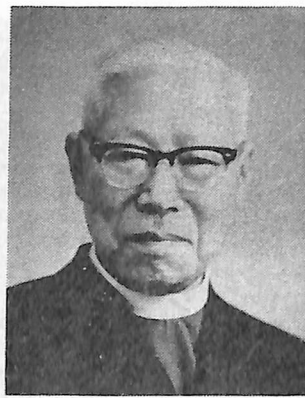
最近私は福音書にある主イエスと弟子たちとの交わりは、正しくこれだと気づきました。クリスチャンのアシュラムはインドからではなく、福音書から出てきたと言わなくてはなりません。もし今日の教会がこのことに気づかないならば、最も大切な神との交わりは持てない。古代インドのアシュラムでは、グル（教師）は神である。神でなければ光を与えることはできない、と言われていた。しかしヒンズー教の書によると、いかなるグルも神でなかったとある。所が聖書には主イエス・キリストは神であり光であり命であると言っている。主が始められた初代教会のゴイノニヤ（靈交）は、古代インドの抱いた理想を正しく実現したものであった。主イエスのアシュラムはガリラヤ湖畔でベッドもない単純な生活をしながら、主

の教えを学んだのである。「孤には穴あり、空の鳥には巢あり、しかし人の子には枕する所がない」と言われた通り、質素な生活をされ、祈りと瞑想に時をさき、福音の生命を宣べ伝えられました。私はこの主イエスのアシュラムに参加している一人であることを、皆様と共に喜ぶものです。インドばかりでなく、日本、米国、スウェーデン、世界各地で同志が福音のために大きな働きをしていることは感謝です。

スタンレーはここで一番大切な事は、参加した者が全く心を開いて互いに恵みを分合うことであると云われた。彼ほど世界を歩いた人は少ないが、彼はクリスチャンが一番心を開かない人々であると感じられた。教会から帰っても心はとちたままである。人間同志の交わりを妨げるものは、自分中心、ねたみ、うらみ、憎しみなど清からぬ思いである。これらは人間関係だけでなく、自分が自分を正しく見ることも、神を見ることも妨げてしまうものであります。

なぜ私はここに来たのか、その目的、私が最も必要としているものは何かについて心を実際に開くことをしたい。お互いは人間である故に、様々な理由も結構、しかし主イエスが望まれるのは、今あなたが真に求めているものは何かである。ここで主のみに前にサレンダー（屈服）して主の求めに応じ、心を開くなら、あなたの方の期待以上の恵みにより、全く新しく造りかえて下さるのです。主イエスの所に来る人には必ず何か深

い理由があった。初代の使徒たちを初め、今日の人々も皆、主のみもとにそれなりのニードを持って来ている。そして求めてきた人々は全て清められ、新しくされている。騒がしい都会を離れ、さびしい所に退修することはなぜ大切なのか。教会でも自宅でも神の真理は発見できるはずと思うが、退修することによって発見するものがあり、発見しやすいくことは実験済みである。海をわたって集まった一同は互に心を開こうではないか。真のニードを主の御手に渡して新しく造りかえられたいものである。今から暫らく黙想し、今自分は何を求めているか、真の必要は何かを示され、主に向かって心を開こう。主よ、どうか、一同の心を導いて下さい。アーメン。



前理事長・連盟顧問
高瀬恒徳先生召天さる

第十回ジョーンズ伝道全国委員長に続いて、わが連盟の結成から初代理事長として一方ならぬ御奉仕を頂いた高瀬恒徳師は一年余の入院斗病生活の後、遂に昨年十月二日聖日の夕刻主の御許に帰られ

- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

た。ジョーンズ博士と同じく享年八九才であり、大正七年に聖テモテ教会伝道師に就任、司祭按手を受けて牧師となり、次で主教に任ぜられ、昭和四四年に停年で名与牧師となられても最後まで教会伝道に奉仕されること六十年に及んだ。これもジョーンズ師がインド宣教に尽された年数と全く一致する。私たちは先生を『日本のスタンレー』と呼んでいたがそのことは他の点、つまり信仰、人格、伝道熱においても相通じるものがあるのを拝察している。先生は聖公会主教であると共に全教界に目を開き、日本キリスト教協議会の各事業部（視聴覚、教育、文書）の理事長とか委員を努められた。戦前オクスフォード運動にも力を入れ、戦後はジョーンズ師の伝道とアシュラム運動に共鳴し、非常な指導力を発揮し、老躯をひき上げて全国各地を援助され、『祈りは聴かれる。それを信ぜよ』と奨励した聖書と祈りの人であった。日本アシュラム連盟の理事長として二期四年にわたる責任を負い、顧問となられた後も病床から電話、手紙などで指導して下さった慈父の如き先生、第三回国際アシュラムのために祈って下さった先生、私たちも東山荘で一同お祈り申上げた先生が遂に主のみ許に帰られ、『われらのモーセは見えずなれり』の感を深くした。昨十月二十六日午後、聖テモテ教会にて七百名以上の会葬者による葬送式が後藤真教区主教によって挙行されたが、連盟代表として海老沢理事長が心からの追慕の弔詞を述べた。御平安を祈ってやまない。

各地だより

▼米国連盟のパウロ・ワグナー師より

私たちが歓迎されたあなたのお言葉に對して、私たちが受けた御親切とクリスチャンとしての深い交わりについて、匹敵する感謝の言葉がありません。非常な御準備のかげに、主イエスの命を分か合う一致を見ました。ある人は『私はあの集いのことを述べる言葉がない。栄光、壮麗、異様などと考えたが、どれも不十分だ。実に溢れる思い出に満ちている』と言ひ、ビル・バーグ師も『私は極東のアシュラム運動の驚異的な変革の迫力に強く打たれ、震われない御国の確信を深められて帰った。アシュラムは生きてゐる。否、主イエスは生き給う。そして強力な奇跡を今も行われているのを見た。こんなに燃やされたことはなく、前途にこんなにはすばらしい実のりを望めた時もなくかった』と手紙をくれました。

▼四国の委員長・宇都宮充師より

去る十月東山荘に於る国際アシュラムに出席できたことを無上の光栄と感謝に

▼アシュラムとは故スタンレー・

取り入れて創始されたキリスト教

満されておる。第一に世界の教界の指導者たちが、創始者ジョンズ博士をどんなに敬慕しておるかを知り博士がいかに大いなる神の器であったかを今更乍ら痛感した。その衣鉢をつぐ人々が各国でアシュラム運動を展開しておる熱心さにも驚嘆した。マシューズ牧師は都合で出席されなかったが、米国参加者の団長として来られたビル・バーグ牧師、インドのタイタス牧師、瑞典のニールソン牧師、北米連盟のワグナー牧師など何れも靈的で伝道熱の熾烈な心に打たれた。これこそ真のアシュラム、信仰と祈りに満ちる活けるアシュラムであることを学んだ。タイタス師の力ある福音的説教、バーグ師の主の御臨在をリアルに満しておる聖餐式、ニールソン師の救霊のスピール、ワグナー師のアシュラム運動についての展望など一つ一つが私共に大いなる啓発を与えた。

予想以上の多数が参集し経済的にも余りある恵みを頂いたのは、神の御憐みと準備に奉仕された方々の熱心な祈りの賜であったことを銘記したい。これから我國のアシュラムも神によって開眼の勢威を与えられ、愈々盛んになることを期待しておる。

▼関東の委員長・横山義孝師より

全般の印象は好評です。タイタスのメッセージが良かった。聖餐式も非常に恵み豊かなものであったが、地区委員会ではアシュラムで聖さん式を守るとは慎重にしたいとの意見があった。二年に一

ズ博士がインドの退修方式を

しい祈禱生活のことである。

度位、海外の助言者を迎え全国を廻ってもらう形ですのも良いのではないかと

▼中部の委員長・内村サムエル師より

雨の東山荘でしたが、恵の雨が参加者一同に注がれ、本当に感謝でした。集会の内容も格調高く、魂の深みに御言が入ってきて心を開かしめ霊を豊かに注ぎ、全き献身をし奉仕へとかりたてるものでした。私も献身者の道を深く探られ、十字架の下に伏し、新しい決意に立上りました。ハレルヤ。御苦勞様でした。

◎四国地区(十三回)アシュラム

一月十三日(土)―十五日(月) 徳島県阿波町、土柱自然休養村センターにて主題『御言への聴従』(マタイ八・八) 助言者・横山義孝師(連盟理事)

◎東京城北(九回)アシュラム

二月十二日(月) 朝九時―夕五時、池ノ上教会にて、主題『神に近づけ』助言者・山根 海老沢、淵江、松田、有馬。

◎感謝アラユシム(全国理事会)

二月二六日―二七日東京王プラザホテルにて。

◎関東アシュラム委員会

去十月二七日(金) 江古田教会にて国際アシュラム感謝祈祷会を持ち、海老沢理事長のメッセージがあつて約三十名が感謝の祈りを捧げた。引続き委員会。

◎関東地区(十七回)アシュラム

本年十月九日(火)―十一日(木) 青梅市古里福音の家にて、主題他未定。

東京都目黒区中央町1-21-10

日本クリスチャン・アシュラム連盟

最新刊

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 千60円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台1-18-1 海老沢方

栄香料株式会社

代表取締役 仲山 栄一

東京都中央区日本橋本町4-11

TEL 03-270-0731(代表)

参加者が何度でも読むべきもの『アシュラムとは何か』(50円)